

遺物
石積み1の裏込め石から、近世陶磁器の小破片と煙管(きせる)の雁首(がんくび)と吸口(すいくち)を確認しました。雁首は、形態から19世紀に作られたものと考えられます。また、堤体部から近世陶磁器の小破片と播鉢の破片を確認しています。

確認した遺構と愛知川との関連性

今回確認した石積み遺構と堤防本体は、愛知川の護岸施設と考えられます。しかし、近現代における愛知川の改修やほ場整備などによる地形の変化が著しいため、確認した遺構と愛知川との関連が不明確でした。

そこで、ほ場整備前の地形図や明治時代の絵図などからかつての地形を復元したところ、明治時代に存在した愛知川の堤防の位置とほぼ合うことが判明しました。

このことから、今回確認した遺構は愛知川の旧堤防と考えられます。

まとめ

河川の堤防や石積み護岸を発掘調査した事例は、全国の主な遺跡では、京都府宇治市の宇治川太閤堤跡(17世紀)や、和歌山県伊都郡かつらぎ町の紀ノ川護岸施設(17世紀)、高知県土佐市新居上ノ村の上ノ村(かみのむら)遺跡石積み護岸施設と石積み堤防(近世前期)、山梨県南アルプス市の御勅使川(みだいがわ)や前勅使川(まえみだいがわ)の堤防遺跡群(近世～近代)などがあります。

滋賀県内では旧草津川左岸堤防の断面調査(平成18年)や野洲市の堤(つつみ)遺跡で確認された15世紀の堤防などがありますが、石積み護岸施設を伴った堤防は今回初めてです。

また、今回の発掘調査によって堤防の構造の一部が判明しました。愛知川氾濫源に住む人々は大雨が降るたびに発生する水害に悩まされ、その被害から少しでも集落や田畑を守るために、土を叩き締めた堤防や石積みの護岸施設を築きました。その施設の一部が今回確認できたことは、愛知川に対する水害対策を具体的に知ることができる貴重な資料といえます。

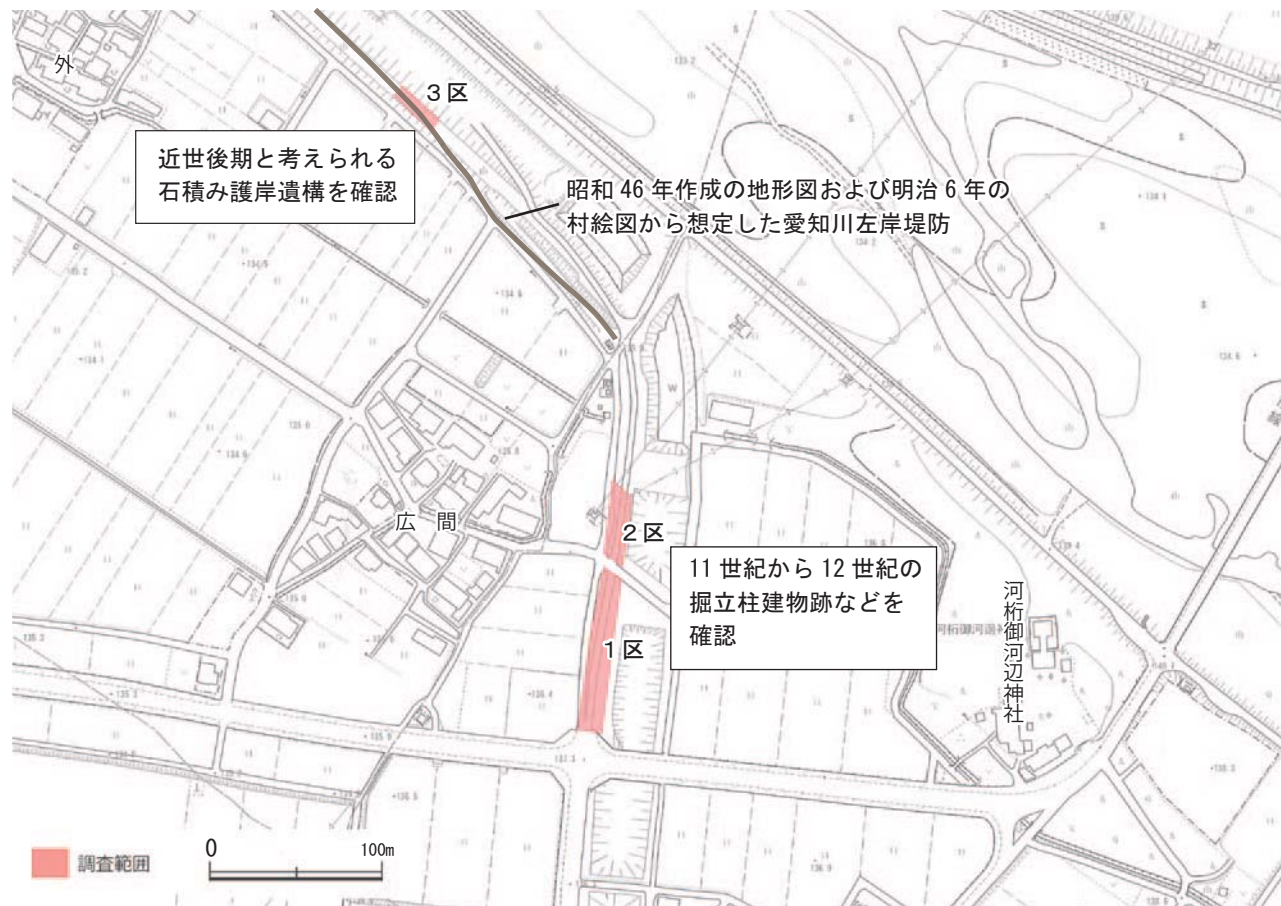


図5 今回の調査成果

どい 土位遺跡発掘調査現地説明会資料
平成27(2015)年7月4日(土) / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会



調査の概要

当協会では、滋賀県東近江土木事務所および滋賀県教育委員会からの依頼をうけて、県道五個荘八日市線道路整備事業に伴う土位遺跡の発掘調査を平成27年4月より実施しています。土位遺跡は飛鳥時代から中世にかけての集落遺跡として知られています。今回は2,070㎡を対象に発掘調査を実施しており、南側の調査区にあたる1区と2区では11世紀から12世紀にかけての掘立柱建物を確認しました。

その北側の調査区から、愛知川の堤防の一部と考えられる石積み護岸遺構がみつかりました。かつての愛知川は大雨の際に氾濫洪水を繰り返す暴れ川で、人々は洪水から集落や田畑を守るために堤防を築いてきました。古い堤防は近・現代の治水工事によって大きく造りかえられており、明治以前の姿は絵図や文書からその姿を推測するのみでした。

発掘調査で確認した遺構は、堤防本体とそれを守る石積み護岸の一部で、滋賀県内で石積み護岸を確認したのは今回が初めてとなります。

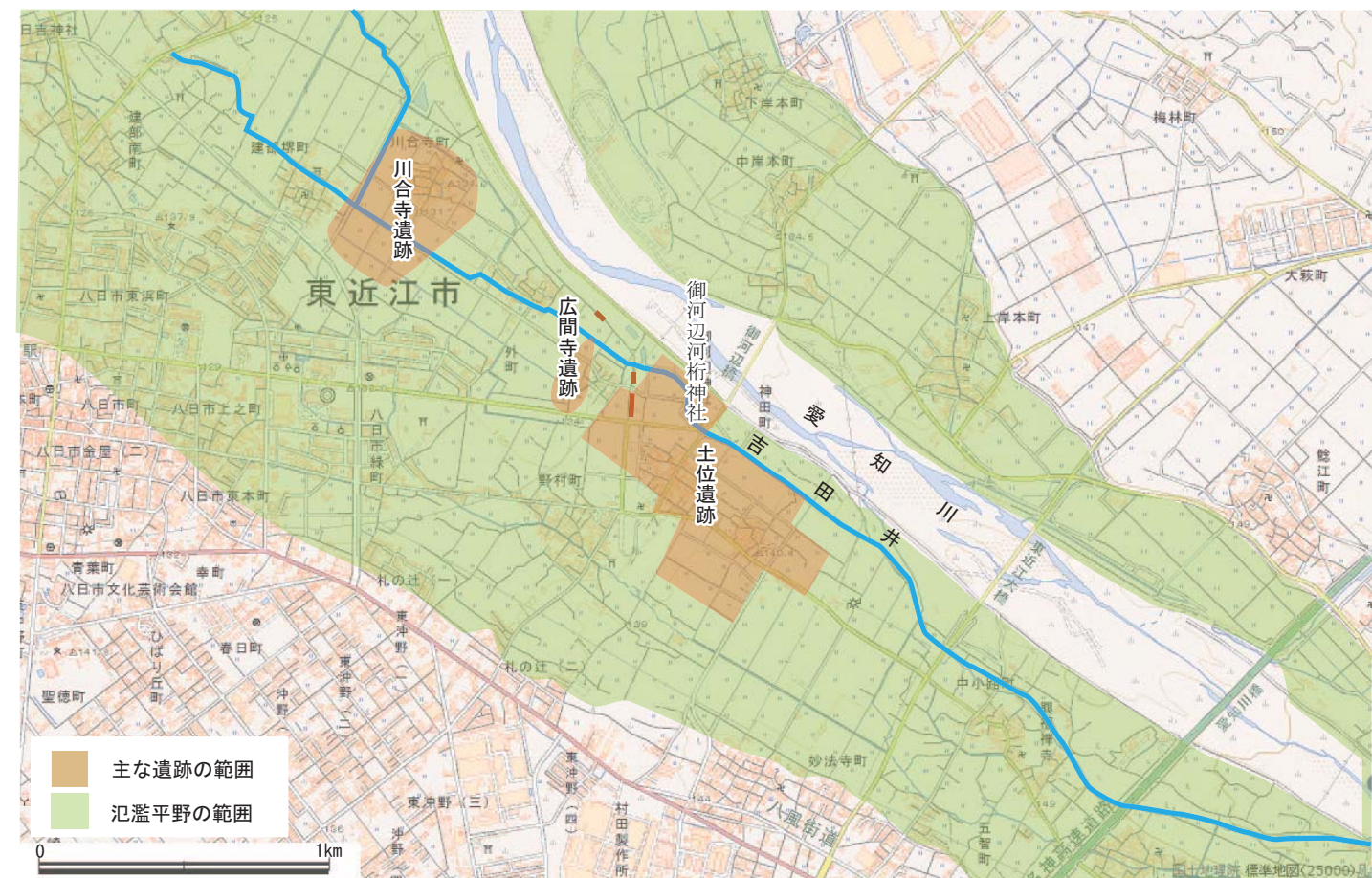
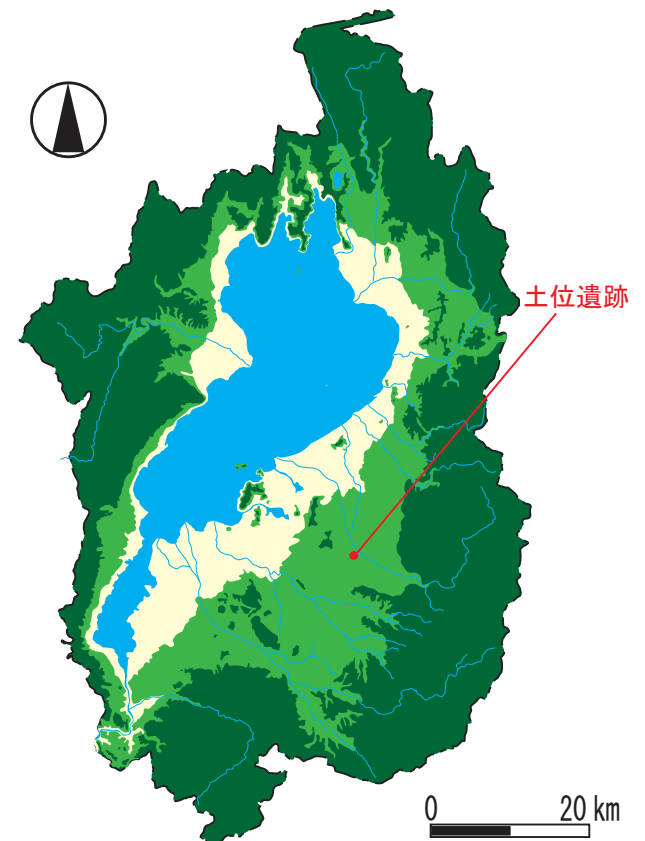


図1 土位遺跡の位置と周辺の遺跡



① 石積み護岸遺構全景（南東より撮影）



② 堤防本体断面写真（南東より撮影）
土を積み重ねていることがわかります。



③ 石積み護岸遺構1（東より撮影） 石積み護岸遺構2を覆うように造られています。

遺構

調査区から3種の石積み護岸遺構と堤防の本体を確認しました。
(<以上>とは、遺構が調査区外に伸びるため、現状で確認できる規模です)

石積み護岸遺構1（図2・図3参照）

長さ：3m以上 高さ：1.2m以上
石積みの規模：0.3～0.4m大の川原石を7段以上積む
石積みの角度：45度前後
石積みの裏側：上部 幅3m以上、長さ15m以上で0.1～0.4m大の石を充填。
下部 幅2m以上、長さ15m以上で河川によって堆積した石や砂礫、粘質土を確認。

※次に説明する石積み護岸遺構を埋めて川側へ張り出して築いたと考えられます。

石積み護岸遺構2（図2・図3参照）

長さ：17m以上 高さ：0.6～1.2m以上
石積みの規模：0.3～0.4m大の川原石を4～6段以上積む
石積みの角度：45度前後
石積みの裏側：上部 幅1.5m、長さ17m以上で0.1～0.3m大の石を充填
下部 0.3～0.4m大の石で盛り上げるように充填

※石積み護岸遺構1が築かれる以前の護岸遺構と考えられます。石積みの一部が河川による堆積物で埋まっていたことから、増水した愛知川の河川を受けとめていたと考えられます。

堤防（図2・図4参照）

長さ：17m以上 幅：8m以上 高さ：2m以上
※調査区が限られているため全容はわかりませんが、土層断面の観察から構築方法の一端が判明しました。図4の順序で築かれたと考えられます。

石積み護岸遺構3

長さ：8.5m以上 高さ：1.4m以上
石積みの規模：0.3～0.4m大の川原石を10段以上積む
石積みの角度：45度前後
石積みの裏側：上部 0.2～0.3m大の石で充填

※最も上流の調査区で確認した石積み護岸です。石積み護岸遺構2とほぼ同じ方向に築かれています。

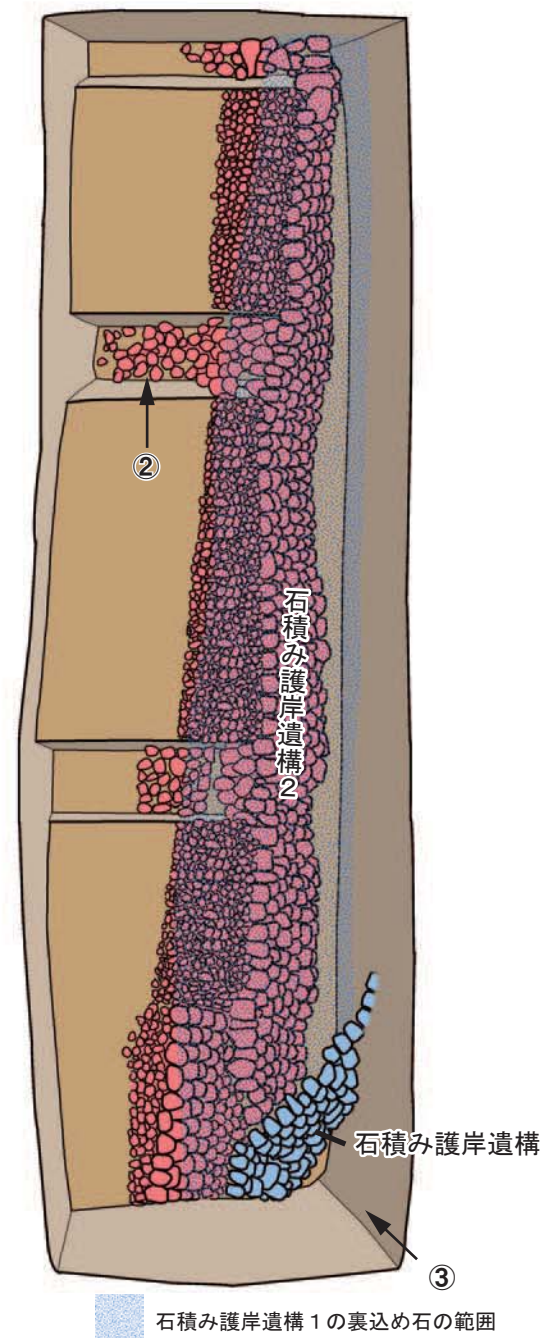


図2 見つかった石積み遺構の位置図

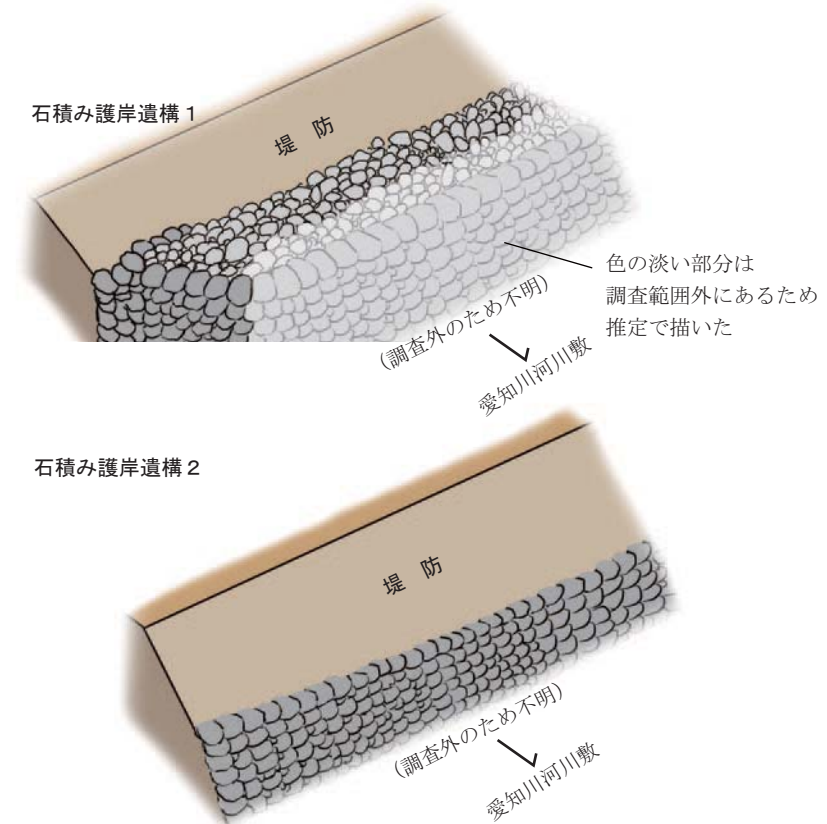


図3 石積み護岸推定模式図

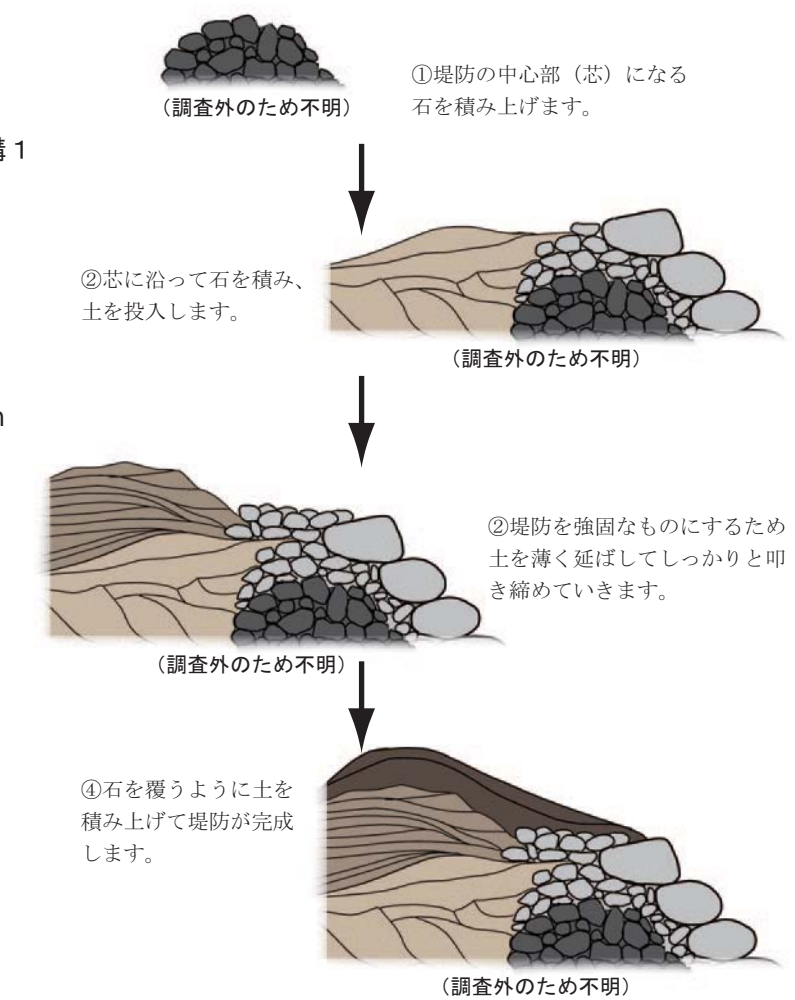


図4 土層断面から推測した石積み護岸2遺構の構築順序模式図